

日本史探究 第11回 授業の進め方とポイント

【第11回テーマとEQ】

江戸の三大改革はどうして必要となったのでしょうか？

～三大改革と外国の接近～

【第11回の解説ポイント】

・元禄時代（17世紀後半～18世紀初頭）以降、日本全国で商品の流通が活発となり、貨幣経済が大きく発達することになった。商品経済の発展は消費・支出を増加させるため、幕府や藩は財政難に苦しむようになった。その対策として、収入の増加や支出の減少をめざした改革が必要となったのである。

・第八代将軍徳川吉宗によっておこなわれた改革が享保の改革であった。徳川吉宗は幕府の財政を立て直すために質素倹約を実行した。大名に対して参勤交代の負担を減らす代わりとして一定量の米を献上させ、収入を増加させようとした。また、目安箱を設置して庶民の意見を政治に反映させたり、裁判や刑罰の基準となる公事方御定書を定めた。

・第十一代将軍徳川家斉の時代に老中となった松平定信は、寛政の改革をおこなった。定信は混乱した政治を立て直し、農村の復興や武士・町人の乱れた風紀を正すことによって幕府の権威を取り戻そうとした。荒廃した農村を復興させるため百姓の出稼ぎを禁止し、非常時に備えるために困米制度を整えた。幕府に対する批判や風俗取り締まりのために出版統制令を出したが、庶民の不満が高まり、改革半ばで失脚した。

・1830年代になると外国船の接近が相次ぎ、天保の飢饉によって多くの餓死者が出るなど社会が大きく動揺した。そのような内憂外患に対処し、幕府権力の強化をめざした改革が老中水野忠邦による天保の改革であった。忠邦は倹約令を出して、贅沢になってきた武士や庶民の生活を引き締めようとした。また、江戸に出稼ぎに来ていた百姓を農村に帰郷させ、幕府の直轄地を増やすことで財政難を解決しようとした。しかし、大名・庶民など広く不満が高まったため、改革は失敗に終わり、幕府権力は衰退した。

享保の改革と寛政の改革の間に存在した老中田沼意次の政治は、幕府の財政再建のために貨幣経済の発展をめざし、商業資本を積極的に活用しようとした点で、他の改革と異なるものであった。しかし、商人との癒着が進み賄賂や不正が横行したため、田沼は失脚することになった。

【これまでに出了れた留学生からの質問】

・なぜ貨幣経済・商品経済が発展すると、幕府・藩が財政難になったのですか。

→18 世紀頃になると農業による生産性も高まり米の収穫量が増加した。そのため、市場における米の価格が低下するようになった。年貢として納められた米を売ったお金を収入としていた幕府や藩は財政難となり、改革が必要となったのである。